

ごあいさつ

PIERS 研究会会長 古土井光昭

今から 20 年以上も前に「英国の海岸には、銑鉄製で、宮殿のような大きな建物をのせた栈橋がある。」という話を聞き、見たいな と思いました。

この話の主の井上聡史さん(政策大学院大学教授)を中心に興味を持つメンバーが集まり 2013 年、ようやく実現する運びになりました。英国栈橋調査(2013)です。この年はロンドンに拠点を置き、英国の主要な栈橋を鉄道を使って日帰りで見回りました。行きの車中はその日見る栈橋の下調べ、帰りは見てきた栈橋についての感想を語る会になりました。毎日英国を代表する栈橋を見続けた結果、全員が栈橋の素晴らしさに魅了され、人々が栈橋を楽しむ姿に感銘を受けました。

2014 年は多くの人に栈橋の素晴らしさを知ってもらいたいとの思いから、関心を持つ方にも声掛けし 18 名のメンバーになりました。栈橋の 1 日を経験したい、調査の機動性を高めたいのでバスをチャーターして回りました。2015 年もバスを使い調査を進めました。そのあと、英国の現存する栈橋を「みんな見る」ことも目標にして有志で未調査の栈橋を回りました。現存 59 基のうち 55 基の栈橋を調査できました。

調査に参加したメンバーの英国栈橋に対する評価は、「英国の栈橋は素晴らしい、日本にあったらいいね」でありました。この機会に、3 年間の調査をもとに、日本の海岸で栈橋のケーススタディーをやってみようということになりました。この活動が「沿岸域における地方創生研究会(えんそうけん)」です。9 か所の海岸で栈橋の構想を取りまとめました。パースを作り具体的なイメージを示しました。大いに関心を持っていただけたと思います。

PIERS 研究会は「英国の栈橋の魅力に取りつかれた人間の集まり」です。また日本の海岸を英国の海岸に勝るとも劣らない海岸にするために活動する人の集まりでもあります。

ホームページ開設にあたっての願いは、ご覧になった皆様と

「英国の栈橋の魅力、すばらしさを語り合いたい。」

「日本の海岸の在りようについて、一緒に考えて行きたい。」

ことであります。この場が大いに役立つことを期待しています。

